

第1回
八峰町学校適正化検討委員会
会議資料

①児童・生徒数の推移について(予定)

R6年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	各校計	合計
八森小	12	9	15	8	14	10				68	
峰浜小	9	13	14	8	14	14				72	
小計	21	22	29	16	28	24				140	
八峰中							25	33	36	94	234

R7年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	各校計	合計
八森小	9	12	9	15	8	14				67	
峰浜小	14	9	13	14	8	14				72	
小計	23 ^(5歳)	21	22	29	16	28				139	
八峰中							24	25	33	82	221

R8年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	各校計	合計
八森小	9	9	12	9	15	8				62	
峰浜小	11	14	9	13	14	8				69	
小計	20 ^(4歳)	23	21	22	29	16				131	
八峰中							28	24	25	77	208

R9年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	各校計	合計
八森小	11	9	9	12	9	15				65	
峰浜小	9	11	14	9	13	14				70	
小計	20 ^(3歳)	20	23	21	22	29				135	
八峰中							16	28	24	68	203

R10年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	各校計	合計
八森小	9	11	9	9	12	9				59	
峰浜小	7	9	11	14	9	13				63	
小計	16(2歳)	20	20	23	21	22				122	
八峰中							29	16	28	73	195

R11年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	各校計	合計
八森小	4	9	11	9	9	12				54	
峰浜小	7	7	9	11	14	9				57	
小計	11(1歳)	16	20	20	23	21				111	
八峰中							22	29	16	67	178

R12年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	各校計	合計
八森小	3	4	9	11	9	9				45	
峰浜小	4	7	7	9	11	14				52	
小計	7(0歳)	11	16	20	20	23				97	
八峰中							21	22	29	72	169

◆複式学級の基準

小学校では、2つの学年の子どもの数をあわせて16人（1年生を含む場合は8人）

中学校では、2つの学年の子どもの数をあわせて8人

子どもの数がこれを下回る場合は、複式学級として編制することができる。

②検討委員会の趣旨

現状

人口構成は少子高齢化となっている

町内児童・生徒数が減少している

小中学校の小規模化が進行

令和11年度以降においては、複式学級が予想される

学校としてどのような規模が適正なのか
(学校適正化検討委員会)

このままで
よい

適正な規模
を検討

学校統合

③これまでの学校統合の経緯について

八森小学校(平成21年開校)

年数	年度	内容
7	平成14年度	教育環境整備検討委員会
6	平成15年度	小学校統合プロジェクト委員会(庁内会議) ※住民説明会
5	平成16年度	小学校統合建設庁内検討会①
4	平成17年度	小学校統合建設庁内検討会②
3	平成18年度	小学校統合建設庁内検討会③
2	平成19年度	学校づくり協議会①
1	平成20年度	学校づくり協議会②
	平成21年度	統合校開校

峰浜小学校・八峰中学校(平成28年開校)

年数	年度	内容
4	平成24年度	学校適正化検討委員会
3	平成25年度	学校再編検討委員会
2	平成26年度	小学校及び中学校統合協議会① ※住民説明会
1	平成27年度	小学校及び中学校統合協議会②
	平成28年度	統合校開校

④ 小規模学校におけるメリット・デメリット

	メリット	デメリット
学習面	・児童・生徒一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 ・学校行事や部活動等において、児童・生徒一人一人の個別の活動機会を設定しやすい。 ・個人作業など、時間をかけて丁寧に指導することができる。	・集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ・少人数の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、相互啓発がなされにくい。 ・運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ・人数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態をとりにくい。 ・複式学級では、1人の教師が2学年分を指導。児童は1時間の半分は自力解決の時間。教師も児童も負担が大きい。
生活面	・児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ・異学年間の縦の交流が生まれやすい。 ・児童・生徒一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	・集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ・切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。 ・組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。
学校運営面・財政面	・全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ・学校が一体となって活動しやすい。 ・施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。	・教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 ・学年別や教科別の教職員同士で学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ・一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ・教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。 ・子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。
その他	・保護者や地域社会との連携が図りやすい。	・PTA活動等における保護者一人あたりの負担が大きくなりやすい。

⑤今後のスケジュールについて

令和6年度(予定)

令和6年	内 容	
5月24日	第1回学校適正化検討委員会	委嘱状交付、正副委員長選任、概要説明、アンケート内容確認、意見交換
6月～8月	保護者アンケート実施・集計	
9月	第2回学校適正化検討委員会	アンケート結果分析、意見交換
12月	第3回学校適正化検討委員会	意見書案の検討
2月	意見書答申	

令和7年度以降(統合に向けた検討が必要な場合)

年度	内 容	
令和7年度	学校再編検討委員会	再編に向けた具体的方策、適正な校舎の配置、スケジュール設定他
令和8年度以降	統合校建設改修等庁内検討会	改修等意見要望聴取、計画案策定、設計・工程案、経費・予算検討他
	住民説明会	
	統合協議会	校名、校章、校歌、運動着、通学路・バス他